

74新破天荒



令和四年度より
創刊
第1号
第2号

二学年一学期が 終了しました

姫路南高校生として、二回目の一学期が終わりました。皆さんにとっては、どんな学期でしたか？

昨年は、まだまだコロナ禍の中で少し光明が差しそうなる形で終業式を迎えましたが、それも束の間、前期補習の中止や三者面談への影響等が思い出されます。

それに比べれば、コロナ禍は五類相当の扱いと共に随分と落ち着きましたね。どさくさ紛れにインフルエンザの方は、幅を利かせて結構収束を迎えることはなさそうですが・・・。

チーム74回生は、世の中の高校二年生のご多分に漏れず、全体としては「何となく、滞ることなく、淡々と」過ぎていった期間の気がします。

学年の出だしは、文系・理系として今までに経験のないクラス編成、75回生を迎えるといった中で、適度な緊張感を伴って「学生の本職」である学習への取り組みに、昨年とは違う姿が感じられた四月。ゴールデンウィーク、中間考査を経て何となく漂いだした「馴れ感」「淀み」は、いつの時代も変わらぬ

「高校二年生感」でした。勿論、74回生全員が「そう」であったわけではありませんが、多数派であったことも事実かと。

文化祭では、少しそんな空気を一新するかのようになり、各クラスが目標を「掲げ」、「団結」し、一つの達成感も得ましたね。その流れで「学校の中心」学年として73回生からバトンを引き継ぐと思いきや、期末考査に関しては、かなりの息切れ、特に土日の休み明け以降、残念な人が多かったと思います。

目の前の課題を大切にしてくれているのですが、目の前に固執し過ぎて、例えば、金曜日は「レスト、土曜日は「明日がある」、日曜は「月曜のこと」のみとなり、結局、金土日と生活リズムを失った結果、週明け以降は「総崩れ」となっているのではないのでしょうか。

保護者の方へ

皆さんのお子様日々の成長を実感できる生活を過ごし、同じ「強い」気持ちを持つようにもう少しだけ、子供達の「顔色」以上に「約束事」の徹底や、家庭での日々の積み重ねの「変化」を見つめてあげることができそうです、お願いしたいです。

いま、目先の「苦しみ」を共に感じるのが辛くて手を「つい」差し伸べることが過度になっていると感じられる保護者様は、お子様が「大人」になって、自分達が差し伸べることができる手が少なくなつたときに、「大人になったお子様」が、どんな「想い」を描きながら人生を歩むかを想像して頂ければ、すべては「お子様のために」と、自分に言い聞かせることができるでしょう。

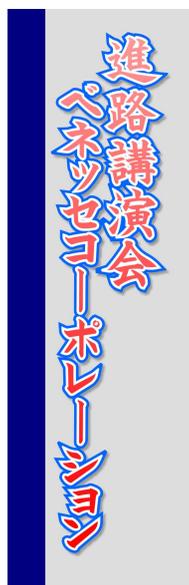
耳の痛いお話で申し訳ありません。ただ、親の立場としての経験、教員生活で得た経験の多くから、「後悔」よりも「うるさい・うざい」を取ってしま

さあ、夏休み

どんな九月一日の出会いとなるか。良くも悪くも、

人生の岐路

となる二年生夏休みです。



期末考査前日の六月二十八日水曜日の六時間目に、ベネッセコーポレーションの松原良典様を講師にお迎えし、本校第二学年生向けに進路講演会を実施しました。

危うく足元が悪くなりそうなタイミングでの開始でしたが、保護者も約四十名の方の参加を頂き大変有難い限りです。

近いところで見ていると、ついつい「欲が深く」なるのか、「これでは・・・」がまず頭に浮かびますが、入学以来第三者の立場として74回生を見つめ続けて下さっている松原様からの「客観的な」事実(数値を含む)の数々は、生徒、保護者の皆さんも、顔を上げて自分の未来を見ることができたのではと思えます。

「知らぬ」を「知ろう」とする姿勢

入学以来の上昇傾向

話を聞く顔

受験生減少と競争緩和の話はあっても、それで

「受験はたやすい」

と考える生徒は少ないと思いますが、たやすいのは「選ばなければ」という前提です。私学は、場合によつては全人もあり得ます。

ただ、進路先は「未来永劫」ではありません。近い将来も、進路先が誇れる「母校」であり続けられる進路先を目指していかないと、容易に「入学」できても、「卒業後」の自分の未来が見えない「進路」となったり、存在がなくなる「母校」よりは、「発展」性がある、学びの「深さ」を感じることでできる環境で学ぶ、そのステージが社会に旅立つ準備をするうえで必要性を強く感じるものであること。受験生の減少であったり、競争を望まなかったり、手軽に早く進路先を確定したいという「今風の受験層」の激増(言い過ぎではないと思います)によつて、以前より国立公立大学合格のチャンスが大きく増えているところに着目して、

日々の積み重ね

という小さな努力の継続に気付いて行動してほしい。その小さな努力とは、「こんな方法なのだ」よと、プラスαの学習法、振り返りノートとは？その利用法とは？間違えることの大切さ等の話が皆さんの頭の端々に残っていてほしいものです。



模試の判定において、AとEの判定は均等の人数のパーセンテージでないことは理解できましたね。

ところで、模擬試験の受験に関して毎回約四千元の費用を保護者の方が支払われていることは理解していますか？

受験の取り組み方もそうですが、志望校の判定も、決め打ちした大学でいたずらにE判定を並べるよりは、志望校とは今の自分のレベルを知るものであり、自分の力のE判定ではないレベルを知る、探るものと考えれば、「志望していないから書かない」とはならないですね。

何よりも「E判定」の乱立した模試結果から「頑張ろう」なんていうモチベーションを得られるわけではないと思いませんか？

「お金の無駄」「やる気を失わされることへの無駄」「自分の可能性を削り取られることへの無駄」よりは「自分の可能性を知る」「自分のモチベーションを上げる」ために「行く行かない」ではなく、「行く力がある、ない」を知るための「無駄」を費やしてほしいと考えて、志望校書きの指示を出しました。

保護者の方も含めてご理解を頂ければと思います。ひよっとしたら、「出会い」となるかもしれないし、「第一志望への近道」になるかもしれません。



あなたは何を思い浮かべますか。私は教員生活が今年で三十四年になります。その間、在職した学校

は七校。多くの先生方からは「異動が多い」「落ち着き、辛抱がない」などと言われることも多いです。

しかし、在職した学校の校歌はすべて唄えます。皆さんは如何ですか？人によっては姫路南高等学校までで五つくらいになるのかも。

この職について、どの学校でもたくさんの困難と多くの生徒と対峙しました。「学習指導」「生徒指導」「進路指導」・・・恥ずかしい話だが、一人の空間になった時には、時には声を上げて、時には忍び、時には叫び、何度も涙しました。

その度に、自分を救ってくれたのが経験校の校歌でした。不思議です。でも自慢です。未だにそれが続きます。これが不思議なことに、ピンチになればなるほど、思い浮かぶのは一番ではなく、二番以降。

ただ、そこにまだ現任の「姫路南高校」の校歌が加わっていない・・・。

聞く機会が少ない、唄う機会がないからなのか。ひよっとしたら、そこに今の自分の問題があるのかもしれないですね。

因みに、母校の校歌を振り返り始めたのは、東播地区の学校から再び西播地区に戻った頃からです。「何故、今があるかを考える。」お世話になった複数の先生方から言われた言葉です。

その気持ちももう少し早く芽生えていたら、母校に恩返しができていたかもしれません。昔から母校の校歌ではなく、応援歌は忘れず唄っていたのですが。

他人にとっては他愛もない唄ですが、私の人生に素敵な彩を添えてくれた校歌の数々です。

♪ 播磨野のもなかにありて

窓近く妻鹿山おろし

松風の響きをつたう

天地のいのちにきけと

うましその 吾が鬘飾磨 ああ飾磨高校

♪ 我が姫高はむつみあい

自由と自治を重んじて

文化国家の建設に

齊しく心を傾くる

♪ かずかぎりなき波の秀の

播磨灘をぞ前に見て

剛毅の心培いつ

山並はるか稲毘野の

おだしき空に清明の

心を養い来りたる

南 南 高砂南

♪ みどり色濃き増位山

照る日輝く広ヶ峰

白鷺城を仰ぎ見る

学びの家のはらからよ

高き光を身に享けて

つくりたてなむ国の基を

♪ 風さわやかに常緑の

梢を鳴らす御鷹台

碎くる波の音冴えて

御崎に高き陽の光

仰げ赤穂の城頭に

昇る正義の輝きを

♪ 白き風 瀬戸の海より 吹き渡り

北山の 松の梢を さやがせて

鮎帰る 川のせせらぎ これに和す

この高き台にそびゆ 学び舎に

若人の 自立のおきて うちたてん

相生 相生 相生高校

♪ 鷺山に秋の夜は更けて

城楼照らす松の月

衛士の眠りふかき時

帷幄に矛を按じつつ

中国経綸早やなりし

嗚呼豊公の夢の跡

♪ 商神彩なす翅をあげて

壺杖遙かに東を指せば

霊しき果実は雲間を漏りて

秋津島根に落つとぞ見えし

所はここぞ菊水かほる

湊河原の近きほとりに

かく伝はりし天のさとしも

人はさとらで幾年か経ぬ

デジタルの時代に超アナログな、しかも精神論。だが、時が変わっても変わらぬものがあることを、いつか気づくと思います。

皆さんも、心の礎となるものに出会えますように。

七・八月の予定

七 月

二十日(木) 終業式
二十四日(月)～二十八日(金) 前期補習

八 月

十一日(金) 山の日
十七日(木)～二十五日(金) 後期補習(希望者)
(オープンハイスクール日は除く)
二十七日(日) 全国統一模試
(希望者 校外にて)

九月の予定

一 日(金) 始業式
四 日(月) 課題調査&授業
五 日(火) 課題調査&授業
十二日(火) 教育相談
十四日(木) 体育大会前健康相談
十八日(月) 敬老の日(祝日)
二十一日(木) 体育大会準備
二十二日(金) 体育大会
二十三日(土) 秋分の日(祝日)
二十六日(火) 教育相談

漲る力

活躍を信じて

進路講演会謝辞

一組 森中 博幸

今日の話を通じて、自分たちの進路選択の日が近づいていることや、どう進路選択の道を選ぶべきか、しつかりと考えるべきことを改めて感じました。
今日していただいたお話を、今後の自分の進路に向けてのモチベーションにしていきたい、これからも頑張っていきたいと思えます。本日はありがとうございます。

近畿・全国大会壮行会挨拶

生徒会長 柴原 綺良

選手皆さん、この度は大会出場おめでとうございます。大会には全ての学校が出場できるわけではありません。日々の辛い練習、仲間との衝突もあったのでしょう。様々な困難を乗り越えてきた皆さんなら、きっと結果となって現れると思います。生徒一同、嬉しい知らせが来ることを心待ちにしています。悔いのないように精一杯頑張ってください。応援しています。

自分の想いを整理する

整理した言葉を他人に伝えるであろう

言葉にする

言葉を相手に伝わるよう表現する

それでも、自分の想いが相手(他人)に伝わっていくことは簡単ではない

分かっているけど、準備は一度で済まそうとする。表現ではなく、用意したものを読もうとする。内輪の発表会ではそんなケースが多いですよ。

今回は、背中に約四百の生徒の瞳、約百の大人の瞳を浴びての発表を覚悟しての準備だったかも知れません。が、堂々と、自分の言葉として謝辞を述べ切ってくれました。覚悟とともに、努力もしている証拠かもしれません。

調子の良いときも、流れの悪いときも、今日自分が感じた想い、空気、視線を忘れることなく、こつこつと自らの努力を積み重ねていきましよう。



兵庫県立大学&スプリング8 見学研修(進路)感想

一組 准田 心菜

播磨科学公園都市に行ったことはありませんでしたが、県立大学やスプリング8に行くのは初めてだったので、今回のプログラムをとっても楽しみにしていました。大学では、理学部生命学科の三年生の方が受ける講義を受けさせてもらいました。資料に付随している文章が全て英語で書かれていたり、大学三年生の勉強内容がすごく難しく驚きでしたが、今の私達でも理解できる内容の所があったので、勉強は積み上げていくものだから、今のうちからしつかり基礎を固めておこうと思いました。またスプリング8やサクラでは、作業員さんのお話を聞かせて頂いたり、施設見学をさせてもらいました。放射光施設と聞くのが怖く怖いというイメージがありました。実際には作業員の方の安全を考えた設計になっていて感動しました。世界最高性能の放射光施設がこんなにも近くにあったことを知らなかったし、スプリング8の持続可能な未来への取り組みを進んでいると聞いて、興味を沸きました。
このプログラムで新たな発見や興味を見つけることができたので、とても良い経験になったなと思いました。

一学期 球技大会

その会に先立ち

今月の ……の勧め

今年度も、一学期球技大会は変則の形で学年毎に行われました。

最近、梅雨の雨だけではなく、暑さや熱中症に関する制限もあり、少しこの先、球技大会の実施についても、真剣に考えていくべきかもしれません。

ただ、生徒の皆さんにとっては心地よい気象条件、適度な運動量、体育館での実施により、楽しく空気が抜ぎができたのでは。

順位は……。それぞれの笑顔の量で順番を決めてください。



教頭先生から交通事故の件数、交通マナーに関する苦情、注意、お願い（というのもおかしいですが）がありました。

事故は、我が体の痛みだけでなく、相手の体や心、家庭を破壊してしまうことがあります。

今の時代、一方的な相手の過失は稀です。どんなに相手に要因があつたとしても、自分にも過失がつくことがほとんどです。

自分たちの世界では、右側も左側も、道いっぴいも、交通機関の座席の独占も、自分たちの権利を主張していますが、そのたびに、君たちが背負う鞆などの名前を見て、数多くの地域の方からの叱咤激励を電話越しに、時には目の前にして頂戴し、「我がこと」として（確かに学校の問題としては我がことだ）頭を下げる人がいることを、少しずつで良いから理解してほしい。少しで良いから「我が物顔」の行動に対して、自分を戒める行動を取れるようになってほしいものです。

君たちが背負っているのは、鞆以上に「姫路南高」の「誰々」という時代になっていること。その重みを感じている生徒のために、頭を下げるのが、生徒と共に闘うのが、生徒のために闘うのが先生の仕事だったかもしれません。

その強い気持ちや意思を持って闘える勇気を、皆さんの日々の姿から思い出せてくれるかな。

一 年	五月	「無駄」
	六月	「諦めない」
	七月	「捨てる」
一 学期末	九月	「チャレンジ」
	十月	「さかのぼる」
	十一月	「テレビ」
	十二月	「大空間」
二 学期末		「無」
一 月		「こだわり」
二 月		「信念」
三 月		「探る」
一 年最終		「自制する」
		「勇気を探す」
二 年	四月	「悩むこと」
	四月	「本気でぶつかること」
	五月	「この世界の片隅を大切に」
	六月	「主体性」
	七月	「客観性」
一 学期末		「ルーティーン」

まずは、毎日する約束事、例えば家の手伝いなど、自分への小さな課題を決めよう。
次に、それをいつ、どの時間帯に行い続けるかを決めよう。

そのためには、一日をいつ始めるか、一日をいつ終わるかを決めよう。

当たり前が続くことは、一見単調に思うが、他人から見て単調な行動は、それをやりきる「強い意志を持った」自分が実はいます。

人から見える「当たり前」にはとてつもない「意思・意欲」を持った自分が存在しないとないことを、この夏休みに入れてもらいたい。

それにわざと「背を向ける」人生を背負うことがどれだけ自分を醜くするか、そんなことに気付く将来とならないよう、今を大切にしたいものです。

七月初めの未来予想図に対して、一学期終業式時発行分にはこの内容。一体、どっちが自分の本音なのだろう。

ただ、今自分の脳裏には、心には、

♪ 澄み晴れて さやるかげなし
白鷺の はばたきつよく
かけり飛ぶ つばさのりて
はこぼるる 青雲のはて
いさぎよき 学風かおる
高らかに うたいたえん
おお姫路南高校

が、日々浮かんでは消え、メロディを奏でそうて音を拾うことがならぬ自分がある、揺れている自分と立ち上がらねばと思う自分がある、一学期末となりました。

散歩道 74

クラスコード 5luczkw

Start 23 → 2022 last 36

2023 start 38 → Now 52

2ndGrade start 52

→ Now 57